



藤井典子さん

渡邊日向さん



対 談

人間・熊田嘉膳を 語 る

異例の
養子縁組から
藩を救う存在へ

藤井 熊田嘉膳が成し遂げたこと

として、まず挙げられるのは水戸藩
での反射炉建設ですが、三春にとつ
ては教育者として多くの後進を育
てることに心を砕いた人ですよね。

渡邊 伝承によれば、小さい頃から
非常に頭が良くて、三春藩領の外れ
の村の六男という立場ながら三春
藩の藩医の家に見習いの一人とし
て入り、そこから養子に選ばれたと
いわれています。

藤井 武士同士の養子縁組ならと
もかく、一般の家から藩医の家に養
子に入るといのは極めて異例で
すから、本当に優秀な子どもだった
んでしょうね。



渡邊 ペリー来航の際は熊田自ら
その役目に名乗りを上げたと言わ
れていますが、残された資料を紐解
くと、藩としても「この事態に対応
できるのは熊田しかないだろう」
という意見だったようです。

藤井 戊辰戦争での三春城の無血

開城においては、朝廷に向いて反
逆の意志がないことを伝える役割
を担ったこともあり、藩内の恭順派
は熊田を理論的な支柱としていた
と思います。非常にアクティブに活
動し三春藩恭順の道を作った人な
のだと思います。

熊田嘉膳とはどんな人物だったのか。
残された資料が限られるなか、

三春町歴史民俗資料館では、その一生を探る研究が続いています。
前副館長の藤井典子さんと職員の渡邊日向さんに、
人間・熊田嘉膳を語っていただきました。

熊田嘉膳年表

文化14(1817)年

田村郡岩井澤村に生れる。渡辺与四郎六男

天保2(1831)年

三春藩医熊田家の養子となる
二本松藩医の小此木玄智の門弟とな
り医学を学ぶ
同時に二本松藩の儒学者鈴木敬蔵の
もとで漢籍を学ぶ
その後江戸に出て、坪井信道の門に
入り、西洋医学を学ぶ

弘化2(1845)年

三春に戻り藩医となる

嘉永6(1853)年

ペリー来航。藩命により江戸に出る

安政2(1855)年

藤田東湖に招かれ水戸に移り反射炉
建設に携わる

万延元(1860)年

帰藩。講所の学頭となる

慶応4(1868)年

1月、戊辰戦争が勃発する
6月、講所学長の山地純之祐と共に
嘆願使として京都へ出向き岩倉具
視と面会。恭順の意志を伝える
7月26日三春藩無血開城

明治4(1871)年

講所の漢字教授となる
7月、廃藩置県にともない講所廃止

